

硬化開始時間を自在に

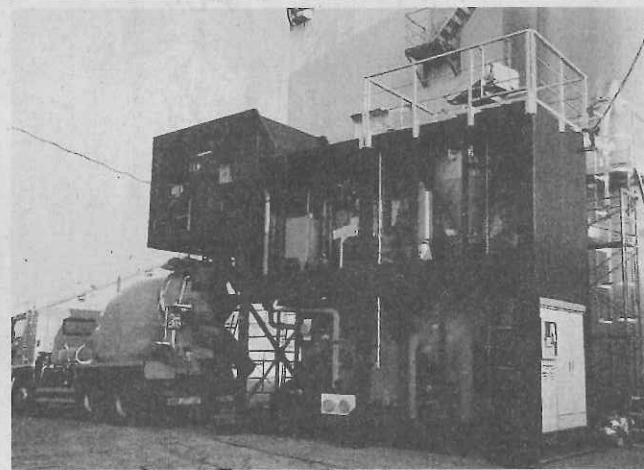
会沢高圧コンクリート

1次凝集構造体利用の新コンクリ開発

会沢高圧コンクリート(本社・苫小牧)は、硬化開始時間を自由にコントロールできる高機能、高耐久のコンクリートを開発した。現場の工程に合わせた硬化開始や、現場でプレキャスト製品を

製造する「オンサイト型プレキャストイング」という新たな建設モデルの確立で、人手不足やプラント不足といった現場の課題解決につながりそうだ。

21日、札幌市内で開いた同社創業80周年記念祝賀会で発表した。セメントの質量に対し25%という少ない水でセメントを練る時に生じる1次凝集構造体を利用する。セメント粒子が4〜5個の単位で結合したもので、高い安定性が特長。この構造体へコンクリートの配合に必要な残りの水(2次水を加えると、ペースト状の物体ができ



菊水工場内に設置したpMp製造モジュール

同社はこれを「水分割練ペースト(pMp)」と命名。生コンを製造するには、pMpを骨材とともにミキサー車の傾胴型のドラムに投入し、かき混ぜる。pMpを用いて製造したコンクリートは高い緻密性と保水力を持ち、フリーディングを抑制。時間の経過とともに水和が進むため強度が高まるという性質もある。

pMp用の2次水に凝結遅延剤を混ぜると、セメント粒子が遅延剤で被膜され、水和反応を数日間停止させられる。骨材とともにミキサーに投入すれば摩擦で被膜が剥がれて数分で生コンの性状が現れる。この性質を利用して自由に硬化を開始させられる。

1次凝集構造体は粘性が非常に高く、一般的なミキサーでは生成できないため、同社は独自のミキサーを含む「pMp製造モジュール」を同社札幌支社菊水工場内に建設。1時間で60立方メートルの生コン製造に対応する活用方法として想定しているオンサイト型プレキャストイングは、工場から液体のpMpだけを運び、重量物である骨材は現場に近い場所から搬入して建設現場で生コンを練練後、プレキャスト製品を製造するというのも

の。引き続き試験などを進め、用途開発の方向性を模索していく。

移住者対象の住宅ローン開始

移住者対象の住宅ローン開始

道銀がJTIと提携 北海道銀行は21日、移住・住みかえ支援機構(以下JTI)と提携し、道内への移住・定住や賃貸活用リフォーム、持ち家の有効活用に対する3つの新たな住宅ローンの取り扱いを開始したと発表

表した。 今回の商品の一つ「道銀移住・定住促進住宅ローン」は、道外から道内への移住者を対象に、移住前に住宅をJTIが借り上げて転貸し、その賃料を返済原資として、新規購入物件の返済に当てるもの。通常の住宅ローン新規受け付け金利より0.05%引き下げている。 地方への移住を希望するシニア層向けの「道銀賃貸活用型リフォームローン」は、JTIが自宅を終身で賃貸保証する「マイホーム借り上げ制度」を利用して、耐震工

事や改築のリフォーム資金とする商品。返済金はJTIから受け取る賃料で賄えるので、新たな返済負担がなく、自宅の資産価値も向上できる。 3つ目の「道銀活用型リバースモーゲージローン」は、JTIの「マイホーム借り上げ制度」により賃貸で受け取った家賃を返済原資に借り入れできるフリーローン商品。自宅を売却して借入れ返済する通常のリバースモーゲージローンと違い、自宅を手放す必要がなく、相続も可能になる。

9月札幌中心部オフィスビル 空室率また最低更新

幸ト エステート オフィス仲介の三幸エステート(本社・東京)は、21日発表したオフィスマーケットによると、札幌市中心部の9月のオフィスビル空室率は前月から0.12%低下し7.24%になった。3カ月連続で統計開始以来の最低値を更新している。

今冬も節電目標設定を見送り

経産省 経済産業省の有識者会議は20日、今冬の電力需給見通しに関する報告書の余裕を示す「予備率」(2016年2月時点)は、沖縄を除く電力9社全体で6.2%となり、最低限必要な3%を上回

居酒屋出店を強化

道南や仙台、関東進出も

年間10店舗の出店を目標に掲げる同社は今後、道南以外での出店を強化するほか、道外への営業エリア拡大も打ち

りとする。50坪程度のテナントビルの1画を借りて内装を施す。店舗も従来のコンセプトとは違う、新たなブランドを創出し、観光客の需要を取り込む方針だ。